

# 第6回 草津市草津川廃川敷地土地活用検討委員会 会議次第

日 時 平成23年1月17日（月）  
午後1時30分から  
場 所 草津市人権センター  
2階大会議室

## 1. 開会

## 2. 議題

- ・ 第7回旧草津川跡地対策特別委員会の報告について
- ・ 草津川跡地利用基本構想(素案)について

## 3. その他

## 4. 閉会

### 【資料】

第7回旧草津川跡地対策特別委員会資料、草津川跡地利用基本構想(素案)

# 第7回 旧草津川跡地対策特別委員会 会議次第

日 時 平成22年11月29日(月)

14:00~16:00

場 所 第1委員会室

## 1. 開会

## 2. 議題

(1) 草津川廃川敷地の位置づけについて

(2) 試算事業費について

## 3. その他

今後のスケジュールについて

## 4. 閉会

### 【資料】

資料1：草津川廃川敷地の位置づけ（第5次総合計画での考え方）

資料2：草津川廃川敷地の資源・特性を活かしたまちづくり

資料3：基本構想図（素案）における、堤体の形態及び土量配分の概要図

資料4：区間⑤における堤体形態の比較

資料5：アンケート結果による市民意識

資料6：試算事業費など

参考資料：旧草津川整備事業の市基本方針上の位置づけ・効果

## \* 検討委員会の状況

- 第1回 平成22年5月10日
  - ・草津川廃川敷地の経過等についての説明
  - ・市民アンケート（案）についての検討
- 第2回 平成22年6月29日
  - ・草津川廃川敷地の暫定活用の経緯について
  - ・市民アンケート調査結果について
  - ・ゾーンイメージについて
- 第3回 平成22年7月20日
  - ・ブロック毎の課題整理と方向性の検討について
- 第4回 平成22年8月30日
  - ・土地利用基本構想（素案）について
- 第5回 平成22年10月6日
  - ・土地利用基本構想（素案）について

第5回の検討委員会で土地利用構想図(素案)の承認をしていただく。

## \* 旧草津川跡地対策特別委員会の状況

- 第1回 平成21年12月1日
  - ・草津川廃川敷地の経過等についての説明
  - ・草津川廃川敷地の跡地利用の基本的な考え方について
  - ・今後のスケジュールについて
  - ・旧草津川の現地視察
- 第2回 平成22年2月26日
  - ・県の基本方針について
  - ・市の基本方針について
  - ・事業の進め方について
- 第3回 平成22年5月25日
  - ・第1回草津市草津川廃川敷地土地活用検討委員会の報告について
  - ・市民アンケート（案）についての検討
- 第4回 平成22年8月4日
  - ・市民アンケート調査結果について
  - ・ゾーンイメージについて
  - ・ブロック毎の課題整理と方向性の検討について
- 第5回 平成22年9月9日
  - ・土地利用基本構想（素案）について
- 第6回 平成22年10月14日
  - ・土地利用基本構想（素案）について
  - ・委員間討議

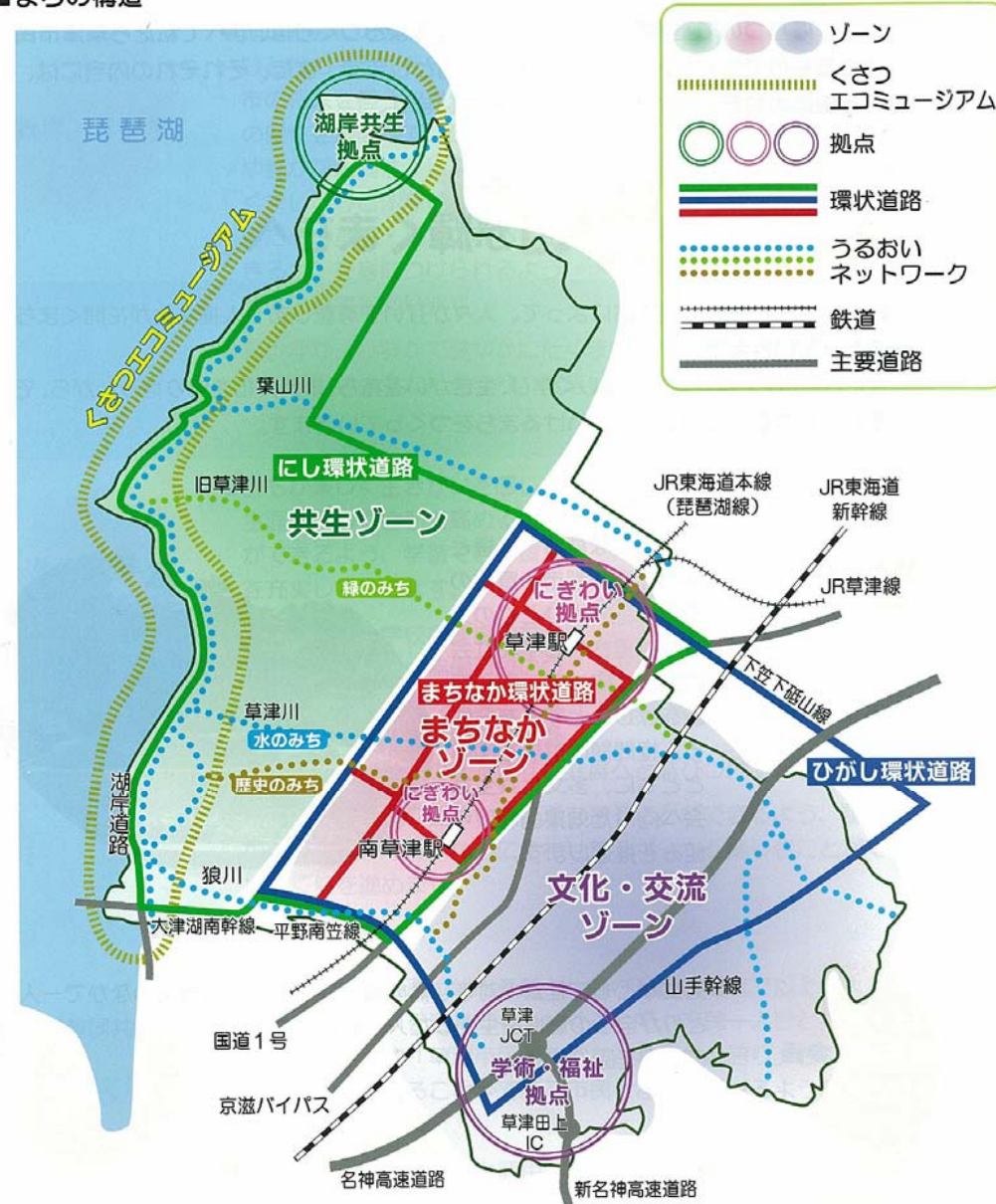
将来のビジョン  
(草津市の目標)

## 出会いが織りなすふるさと“元気”と“うるおい”のあるまち草津

### 基本フレーム【草津市の将来のまちの構造】

自然環境と調和した土地利用を基本に暮らしの基盤を充実させ、さらに、様々な都市機能の集積を誘導して、これらそれぞれがネットワーク化した、便利で快適なまちの構造を目指す。

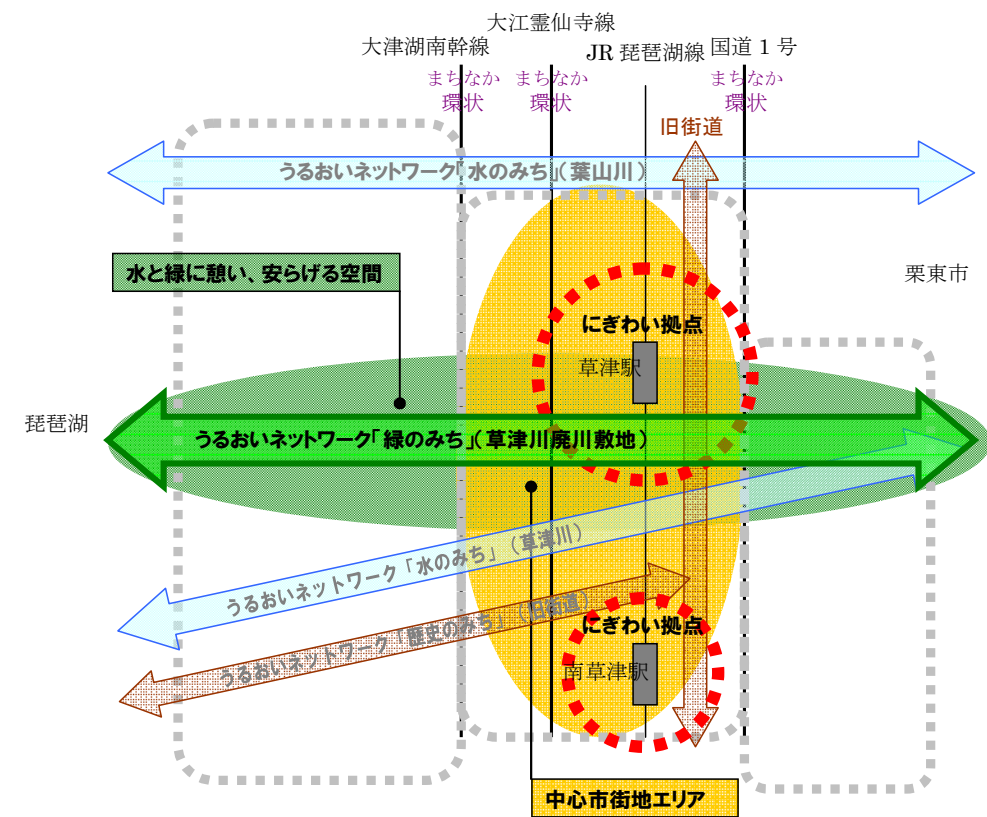
#### ■まちの構造



将来ビジョンを実現していくための基本フレームと草津川廃川敷地の役割

第5次総合計画

### 草津川廃川敷地の位置づけと役割



●草津川廃川敷地の位置づけと役割  
緑・水・歴史などに恵まれた本市の特性は、それぞれが相まって、まちと暮らしにうるおいを導いています。これらを本市における人の営みにさらに生かして、市内外から親しみと憧れを集める快適なまちをつくるため、「緑のみち」「水のみち」「歴史のみち」という3つの「うるおいネットワーク」を位置づけています。  
その中で草津川廃川敷地は、「緑のみち」として位置づけられ、以下の役割を果たします。  
○周辺の歴史的な資源も含めた総合的な活用 ○中心市街地の魅力を高める  
○中心市街地・湖岸間の快適な移動 ○憩い・安らぎの空間

●第5次総合計画（基本計画）での草津川廃川敷地の役割  
○中心市街地活性化の取り組みとの連携  
○水と緑に憩い、安らげる空間づくり

「緑のみち」は、草津市のまちづくりを行う上で様々な関わりが期待され、暮らしの基盤の充実につながります。

- 教育・学習 ⇒ 農業や自然観察など地域社会と連携した学習の場づくり
- スポーツ ⇒ 市民誰もがスポーツを楽しめる環境づくり
- 市民文化 ⇒ 歴史資源の適切な保全と活用
- 健康・福祉 ⇒ 健康増進のための場づくり
- 防災 ⇒ 市街地中心部の防災空間の確保（まち全体の総合的な防災力の向上）
- うるおい・景観 ⇒ まち全体の魅力を高める資源として周辺の歴史的資源も含めた総合的な活用
- 環境 ⇒ 生物多様性の保全を重視した自然環境の保全  
地球環境との調和や循環型社会づくりについての学びを深める環境づくり
- 道路・交通 ⇒ 自動車・自転車・歩行者などが安全で快適に利用できる道路環境の充実
- 観光 ⇒ 自然・歴史資源をはじめとする様々な資源を生かした魅力ある観光振興
- 協働・交流 ⇒ 市民と協働でまちづくりを展開していくための仕組みづくり

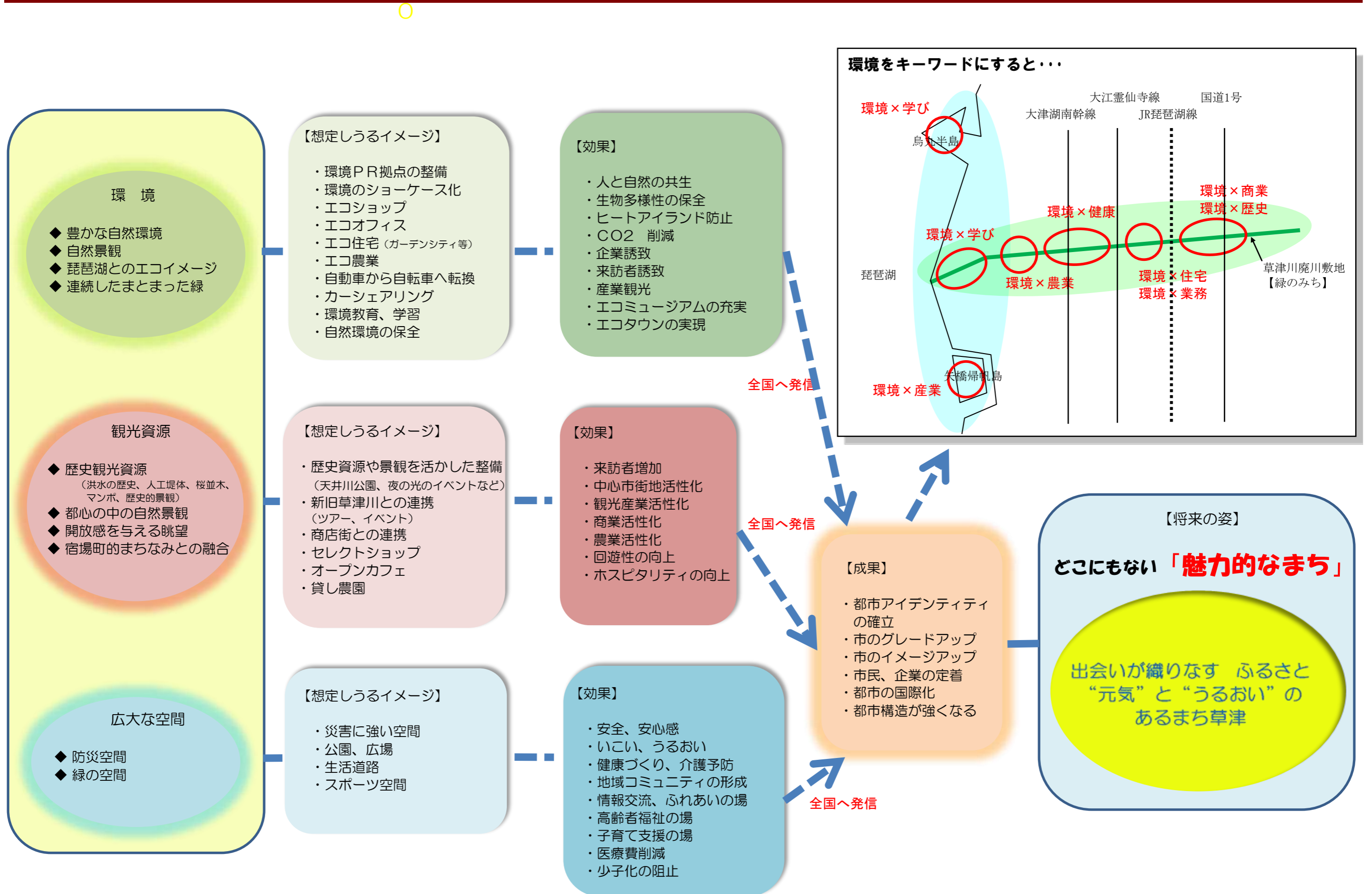
まちづくりの基本方向における廃川敷地との関わり

暮らしの基盤を充実させ便利・快適で魅力あるまちの構造が実現することで、市民は「まちに対する愛着」や「草津市民であることの自負と誇り」を実感し、「ふるさと草津」の心（＝シビック・プライド）が生まれる。

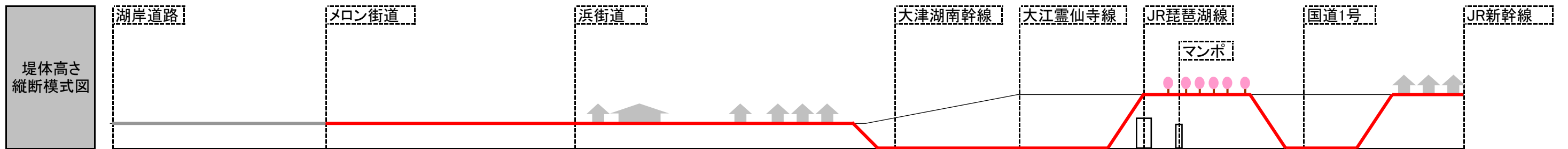
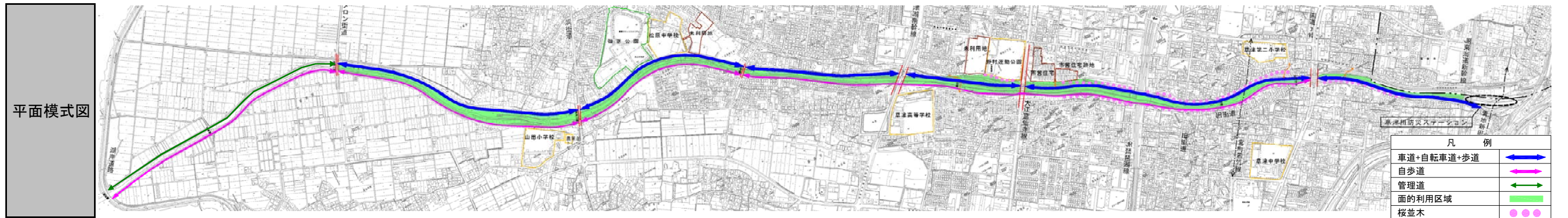
「便利・快適・安全安心・自然豊か」などまちの魅力が充実することで「住んでみたい、行ってみたい」と感じる人が増え<sup>\*</sup>、居住・交流人口が増えることで、持続可能な社会が構築される。  
(※便利・・・などのキーワードは住んでみたい街アンケートでも居住地選択理由の上位に挙げられ評価が高い)

「住み続けたいまち」「草津の市民」としての喜びが感じられるまちなど、草津市が描く将来のまちの姿（将来ビジョン）の実現につながる。

# 草津川廃川敷地の資源・特性を活かしたまちづくり



■基本構想図(素案)における、堤体の形態及び土量配分の概要図

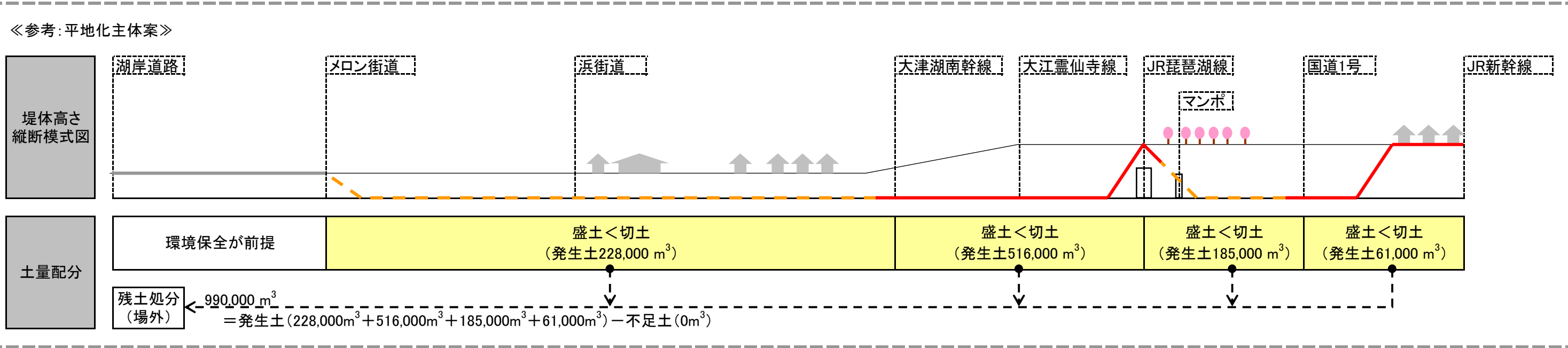


区間	区間① L=1.3km	区間② L=1.2km	区間③ L=1.7km	区間④ L=1.2km	区間⑤ L=0.9km	区間⑥ L=0.7km
----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

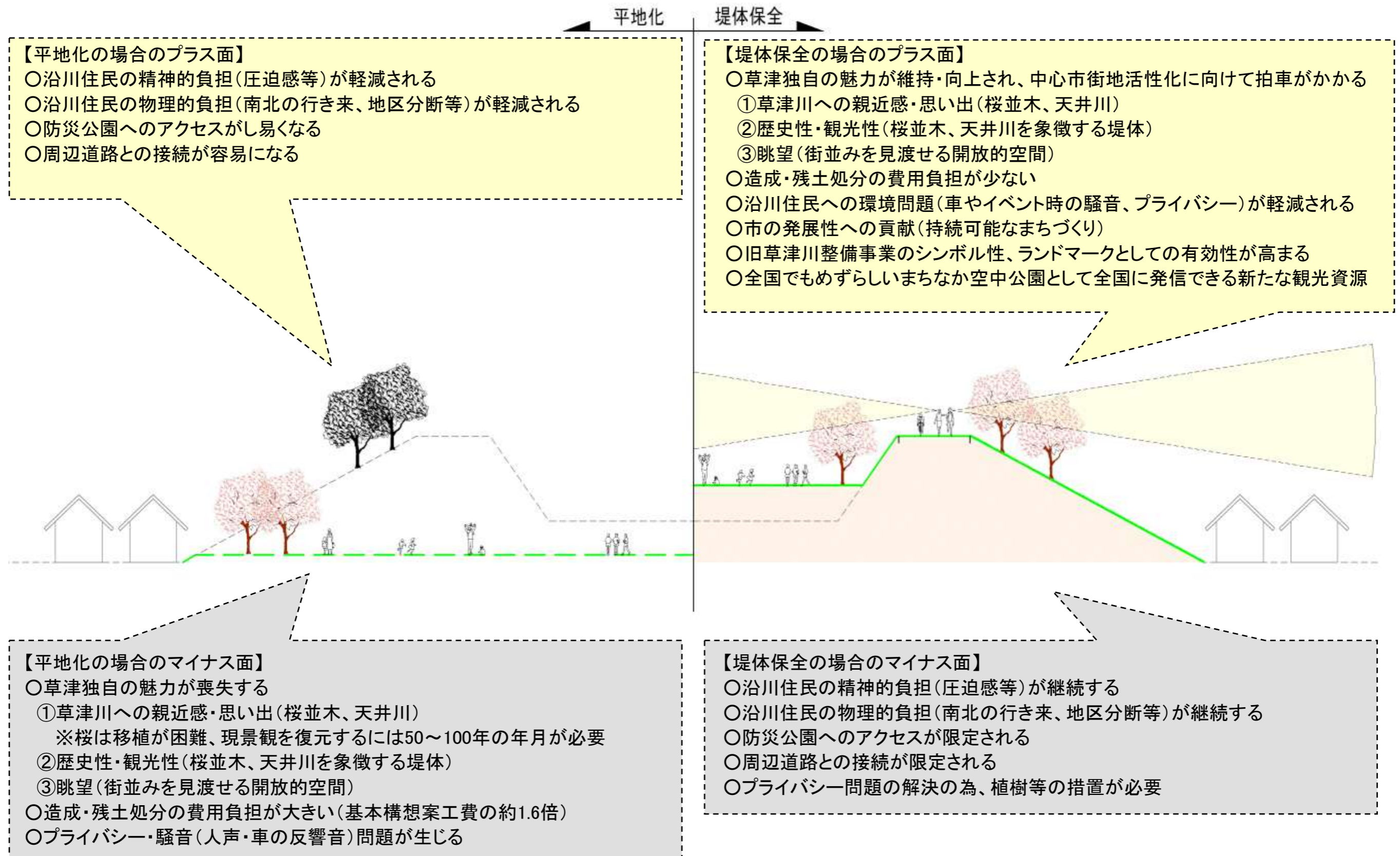
堤体維持が必要な区間	河川区域 ⇒河川水位の維持	・サイクリングロードの利用快適性を重視 ・河川区域の自然生態系との連続性を重視	進入路あり(右岸) ⇒堤防道路の現状形態を維持	JR 隧道	桜並木 ⇒保全活用	進入路あり(左岸) ⇒現状維持
------------	------------------	--	----------------------------	----------	--------------	--------------------

堤体の形態	堤体存置(河川区域)	堤体存置	平地化(擦付含む)	堤体存置	堤体存置	平地化(擦付含む)	堤体存置
-------	------------	------	-----------	------	------	-----------	------

土量配分	環境保全が前提	盛土>切土 (不足土428,000 m <sup>3</sup> )	盛土<切土 (発生土414,000 m <sup>3</sup> )	盛土>切土 (不足土34,000 m <sup>3</sup> )	盛土<切土 (発生土60,000 m <sup>3</sup> )
残土処分(場外)	$12,000 \text{ m}^3 = \text{発生土}(414,000 \text{ m}^3 + 60,000 \text{ m}^3) - \text{不足土}(428,000 \text{ m}^3 + 34,000 \text{ m}^3)$				



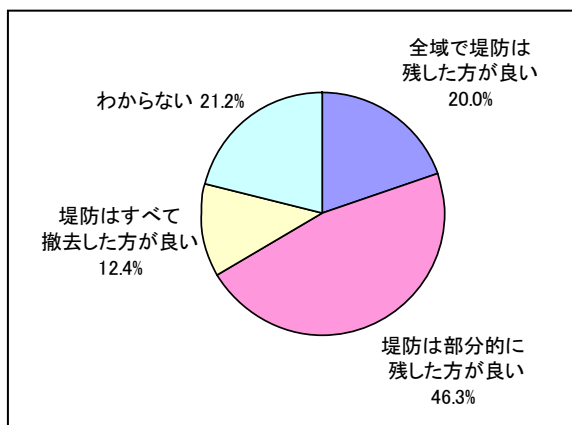
## ■区間⑤における堤体形態の比較



## ●アンケート結果にみる市民意識（市民 3000 人配布）

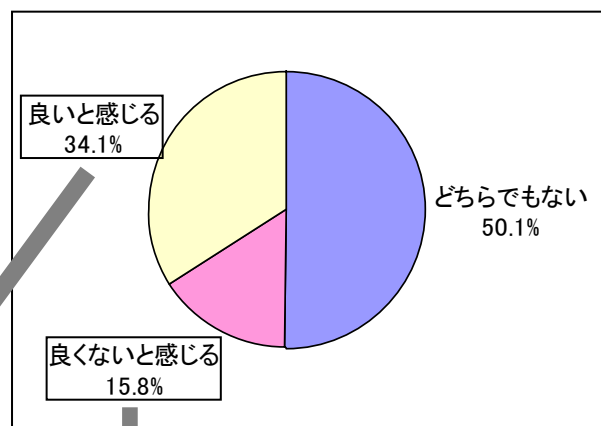
## ①堤防を残すか残さないか

草津川廃川敷地を整備していくにあたって、現況の高い堤防を全域または部分的に残したほうが良いと回答した人が6割を越えている。天井川の歴史や桜並木など堤防に関わる歴史や文化に一定の価値感が存在することが伺える。

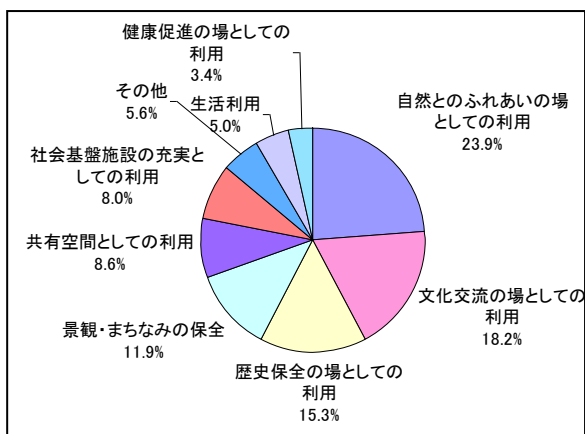


## ②現在の堤防についてどのように感じているか

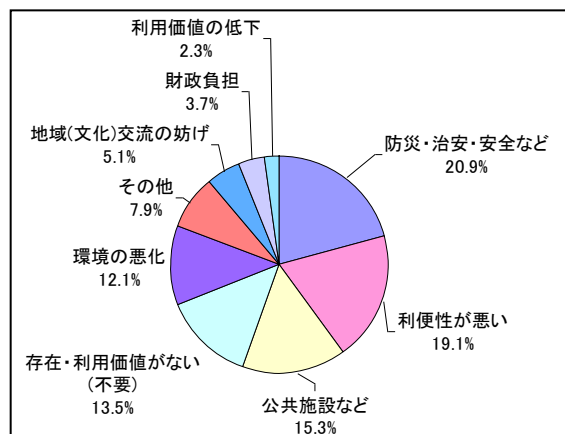
草津川堤防を良いまたはどちらでもないと感じる人は8割を越え、何らかのかたちで良さを感じている人が多い。良いと感じる理由、良くないと感じる理由をそれぞれ③、④に示す。

③堤防を良いと感じる理由

「自然とのふれあい」、「文化交流」、「歴史・景観保全」などが上位を占め、自然や景観面での一定の価値感が存在することが伺える。

④堤防を良くないと感じる理由

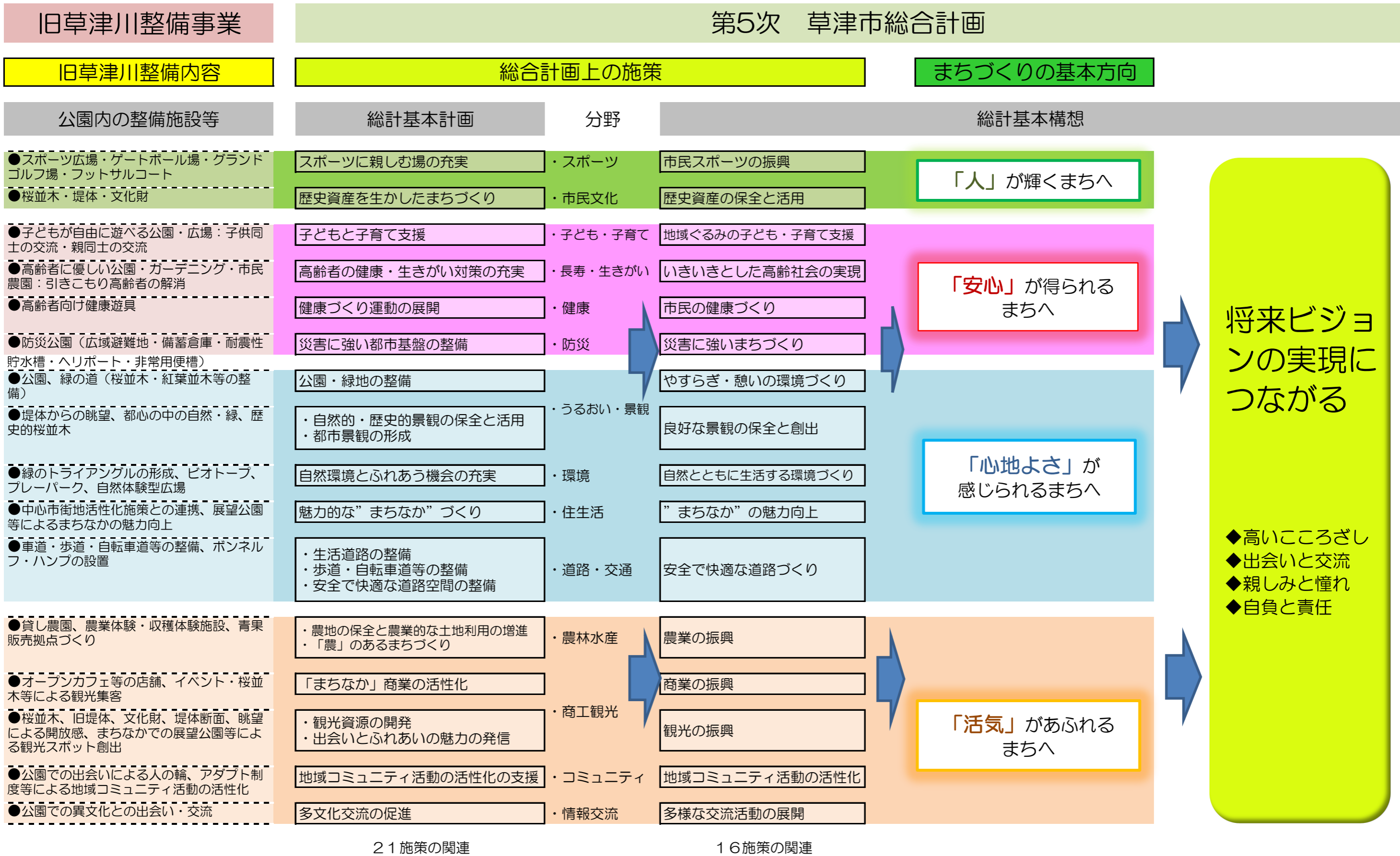
「防災・治安」、「利便性の悪さ」など生活に直結する不満を感じている人が多い。「存在・利用価値がない」、「環境の悪化」と感じている人もいる。





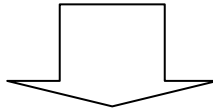
# 旧草津川整備事業の市基本方針上の位置づけ・効果

参考資料



## 地元自治連合会の意見要旨

- ・今後の利用計画については、可能な限り沿川町内との充実した意見交換等の実施して進めていただきたい。
- ・コミュニティの充実・発展を資することが担保できるよう、更なる十分な事前調査と住民ニーズを把握した上で、次の段階に進んでいただきたい。（地域住民のためのコミュニティ振興施設の整備など）
- ・スポーツ広場エリアについては、公式競技が可能なアリーナやグラウンドづくり、また駐車場、研修・会議施設も併せて整備願いたい。
- ・市営住宅跡地、廃川敷地を含めて、スポーツ広場エリアを拡大していただき、「スポーツ都市くさつ」を目指すぐらいの大胆な計画をお願いしたい。
- ・河川内はいいが、周辺の住民のことを考えた計画にしてほしい。
- ・東西を縦断する道路の整備をお願いしたい。



上記の意見を踏まえて、草津川跡地利用基本構想（素案）を作成しました。  
また、特に土地利用計画を修正しなければならない意見はありませんでした。